

受講番号 19104 学校名 県立高知南中学校 氏名 今井 典子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2学年 生徒数 52 名
科目名 2年生 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 2

クラスの様子・特徴

ペア活動には積極的であり、また、発音練習や音読活動などには、元よく取り組むことができる。しかし、「話すこと」に関して積極的に取り組んでいる状況ではなく、また、「書くこと」に対して苦手意識を持っている生徒が多い。

問題の確定

言語使用(自己表現活動ー「書くこと」「話すこと」)が可能となる為の語彙や文法事項の定着が十分でない。

予備調査

A 授業の観察

自己表現活動(実施した活動としてスピーチ・スキット・Show & Tell・4コマ漫画作成)における原稿作成で、語彙力・品詞の使い分け・語順の定着・discourseのある文の作成などが不十分である。

B 生徒による授業評価

4月に実施したアンケートで、「英語が好き50%」「英語の授業が好き48%」「英語が得意44%」という結果が出ている。また、好きな領域は「聞くこと」、好きでない領域は「書くこと」であり、多くの生徒がペア活動に楽しく参加していることが分かった。

C 学力データ

学年当初に、本校独自に実施した英語文法基礎力テストでは、3学期に実施した教科書内容の定着が不十分であるという結果が出ている。CRTでは、4領域すべて、全国平均と比較してわずかに上回っている。

リサーチ・クエスト

実践的な場面で言語使用が可能となるために、語彙や文法事項の定着が必須である。では、そのためにはどのような活動を日常的に組み入れれば効果的であるのか。

仮説・実践・検証

仮説1

語彙指導をコーパス言語学に基づき、語彙の「幹」と「枝葉」の部分の指導に区別し、継続的に実施することで英語力の基盤ともなる語彙力の強化を図ることができる。

実践1

語彙の「幹」と「枝葉」を意識し、教科書の進度に合わせて作成した「Words & Phrases」活動で、単語や語句の復習を継続的に行う。方法としては、最初に全体でリズムに乗って口頭練習を行い、次に、ペアで1分間それぞれ練習する。また、語彙の「枝葉」に関する指導では、Brain map Strategy やWord Fork Strategyなどの手法を用いて、関連語を整理させる。

検証1

短時間ではあるが、継続的に「Words & Phrases」の活動を行うことで、単語や表現をゲーム感覚で楽しく覚えることができた。その結果、口頭での応答、英作文、スピーチやスキットなどの原稿作成の際での使用語彙の幅が広がったと考えられる。しかし、「言える」「書ける」ためにも、単語テストとの関わり、言えるようになった語句や表現を生かす場面の工夫がもっと必要であった。

仮説2

毎時間、既習の文法事項を取り扱った英作文問題を行ない、明示的な文法指導を行なうことで、文法力は強化することができる。

実践2

1学期は特に中学1年生の復習、2学期前半は中2の1学期の復習、後半は教科書の進度に合わせた内容を取り扱い、毎時間2問ずつ実施した。最初に個人で取り組み(1分半)、次に、全体で答え合わせをし明示的な文法指導を行なった。半分以上の生徒が、先の問題に取り組むことができ、間違っている場合は、間違っている箇所を示し返すようにした。このことにより、何が間違っているのかを考える機会を持ち、定着を図れると考える。

検証2

最初は、「書くこと」への苦手意識が高く、積極的な取り組みが見られる生徒は少なかったが、徐々に積極的に取り組める生徒が増えてきた。理由として、「英文問題に取り組むことで、文法知識が整理されたこと」、「分からなかったことが分かったという成就感につながったこと」などが挙げられる。また、生徒の英作文への現在の取り組み状況、パフォーマンス活動での原稿文状況より、生徒の文法力は伸びたと考えられる。

仮説3

授業でのインターアクションの機会をできるだけ組み入れ、その際質問内容を工夫すると共に、corrective feedbackを行なうことで、文法事項の定着を図ることができる。

実践3

Greetingsでは、体調、天気(現在形・過去形・未来表現)、時刻、月日などのdisplay questionsではあるが繰り返し行い定着を図る。これらに加え、T-Sインターアクションでは、既習の文法事項を取り扱い genuine questions を意識した質問内容やフィードバックを工夫する。

検証3

授業の最初に行うdisplay questionsに関しては、自信を持って答えることができるようになった。その次の段階である、genuine questionsでは、recastが生徒のモチベーションを下げるのがなくフィードバックで有効であると感じた。ただし、共通の間違いに関しては、文法的な説明を日本語で明示的に行うことが文法事項の定着には効果的である。

研究の成果

意欲的かつ主体的に学習に取り組ませるためには、やってみようと思う「チャレンジする力」を養うことが前提となる。そのための取り組みとして、語彙力の強化や、文法事項の定着への取り組みを実践している。既習事項に対して、明示的な説明を加え、また、比較して文法説明することで言語知識が整理され、定着につながったと考えられる。自己表現活動での原稿作成では、当初は時間をかけないと書けなかった原稿も、短時間で仕上げるできるようになった。また、辞書に頼らず、既習事項で表現しようと取り組む姿が多く見られる。

今後の授業改善の課題

「意味内容の伝達に重きを置いた活動(タスク活動など)」へとつなげていくためには、文法項目や語彙・表現の定着がその基盤となる。そのため、文法の核となる語彙力の強化、文法事項(語順)の定着を考え、仮説で取り上げたような内容を実践している。しかしながら、伝えたい内容を正確かつ適切に伝えることがまだまだできていないのが現状である。習った語句や表現を自由度の高い場面で実際に使ってみる機会の工夫が求められる。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-831-2811(代)